



シルバ－酒田

〈発行〉

公益社団法人
酒田市シルバ－
人材センター
酒田市相生町2-3-80
TEL (0234) 22-3344
FAX (0234) 22-3434



土門拳記念館

南千日町 大淵 純子

飯森山公園の自然林と丘を背景に、鳥海山が映る絶好の場所。記念館を囲む「拳湖」の周辺に咲く紫陽花も美しい。館内では気迫のこもった土門作品をゆつたりと鑑賞できます。

明治四十二年に酒田町に長男として生まれました。土門拳は本名として昭和四十九年に、酒田市名誉市民第一号となり、全作品を酒田に贈ると表明されましたので、酒田に昭和五十八年に日本で最初の写真美術館が誕生しました。設計、庭、彫刻など各界一流の土門拳と親しかった方々、またその息子さんなどが協力して、土門拳記念館が出来たのです。

土門拳記念館にシルバ－から紹介されて四年近くになります。受付・館内売店販売の仕事をしました。私は作品の中で「こどもたち」が好きです。こんな素晴らしい環境で働くことができ、幸せ者です。それに応えるため、笑顔でお客様に接することを肝に銘じて仕事をしています。最後にお願ひがあります。来年度は開館して四十周年になります。シルバ－会員の皆様是非とも土門拳記念館にお出でくださいませ。

会員皆様の頑張りが評価され、令和4年版厚生労働白書に、 当センターの取組みが紹介されました！

(以下、令和4年版厚生労働白書より転載)

全国約1,300のシルバー人材センターでは、約70万人の会員の就業ニーズを的確に捉え、地域社会や会員個々の希望と特性に合った職域開拓に努めている。ここでは、会員が地域の介護現場を支えている事例を紹介する。

コラム 地域の介護施設で活躍する高齢者（山形県酒田市シルバー人材センター）

高齢者の新たな仕事の創出

酒田市シルバー人材センター（以下、「センター」という。）は、1983（昭和58）年に設立され、2022（令和4）年1月現在で811人の会員が所属している。平均年齢は72.6歳。2018（平成30）年度より、地域に密着した就業の場を創出したいと考え、日頃地元紙などでよく目にする介護の仕事に着目し、介護サービス事業所を訪問してPR活動を行った。また、事業所と共同して人材発掘ができないかと考え、市内にある社会福祉法人と連携し、講習会を開催する運びとなった。

人生経験で培った知識、技術を介護補助業務で活かせるようマッチング

センターでは2018年11月より介護補助業務へ新たな派遣を開始した。同業務を受注するに当たっては、人材確保が急務の課題であった。このため、地域の社会福祉法人やNPO法人から講師を招き、「介護補助スタッフ講習会」を開催して人材の発掘に努めてきた。

講習会には多くの市民が参加し、介護に関する基礎知識や介護施設の役割、傾聴の仕方などを1日で学ぶ。講習終了後、受講者と施設間での仕事のマッチングを図るため、センター職員が中心になり、自前の個別アセスメントシートを活用して受講生のニーズを丁寧に聞き取っている。

仕事内容は、清掃や送迎、食事の配膳下膳、利用者の見守りや話し相手など、身体介護や専門的な知識を必要としないものを中心となっている。会員となった受講生が今まで培ってきた人生経験からの知識や技術等得意分野が活かせるように、各施設の仕事とマッチングし、就業時間も介護施設側と協議しながら、1日2、4、6、8時間の中から選択できるようにして、家事や孫の世話、趣味などとの両立や自分の体力に合わせた働き方ができるように提案している。



働きやすい環境をサポート

センターでは1人でも多くの会員が実際の介護の現場を知ることができるよう、仕事の契約前に職場見学を行っている。実際に施設の業務内容や仕事の流れが把握でき、ミスマッチの解消が図られている。

一方、介護の現場では、職員同士の人間関係や利用者との関係性などコミュニケーション面にストレスを感じる人がいる。そのため、キャリアコンサルタントや社会福祉士資格を持つセンター職員が中心となり、会員のフォローアップに努めている。職員がゆっくりと時間をかけて相談対応を行い、場合によっては施設の人事担当者とも協議する。このようなきめ細かな取組みが就業の安定につながっている。



高齢者が得意分野で持ち味を発揮

センターの会員が介護補助業務に加わることで、施設での恒常的な人手不足の解消に役立っている。

調理が得意な者は料理の手伝いや配膳下膳を行い、掃除が得意な者は風呂場やフロアの清掃、利用者とのコミュニケーションが好きな者は話し相手や見守りなどと適材適所で働く。

会員の働く理由は経済的な理由のみならず、地域に貢献したい、短時間の仕事がしたいなど多様性に富む。

会員と利用者が同世代であるため昔話や歌謡曲、料理の好み

が合うなど、若い世代とは違った視点で利用者をサポートできるのも利点のひとつである。介護する会員側も利用者から「ありがとう」や「手伝ってもらってよかった」などの温かい声掛け、介護の仕事を通じた新たな気づきによって、仕事の満足感の向上につながっている。

多様な担い手による地域の活性化

元気な高齢者に地域の介護サービス事業所で活躍してもらうためには、会員と事業所の橋渡しをするコーディネーターの役割が重要になる。介護の仕事と聞くと「大変そう」「きつい仕事」などと抵抗感を示す方も少なくない。その払拭のためには、先輩会員の就業事例を丁寧に説明したり、職場見学、介護補助業務に関する講習会を開催したりするなど、地域を支える仕事の魅力を伝え、会員のニーズに合った仕事を提供することが肝要になる。

意欲と希望のある多様な担い手によって、地域の課題を解決し、活性化していくことが、今後とも期待される。



土井理事長と懇談する(公社)青森県シルバー人材センター連合会の畠信之輔主事(右)

(公社)青森県シルバー人材センター連合会 視察のご紹介

去る九月二十一日、二十日の二日間にわたり、青森県シルバー人材センター連合会の畠主事が来訪し、当センターで開催された介護補助スタッフ講習会の見学、役員との勉強会、土井理事長との意見交換など、熱心に研修されました。今後、青森県各地のセンターでも、介護補助の仕事で業務拡大していきたいとのこと。畠主事は、とても勉強熱心で沢山の質問があり、私たちも大変勉強になりました。感謝申し上げます。ご紹介いたします。

理事会報告

令和4年度 第3回理事会 (令和4年7月22日開催)

協議事項

第10号議案 顧問の委嘱について

前理事長の伊藤興彌さんと酒田市健康福祉部長の白畑真由美さんを当センターの顧問に委嘱することに決定いたしました。

第11号議案 理事の各委員会における所属について

原案どおり可決承認されました。(別表1)

第12号議案 委員会委員等の費用弁償に関する規程の一部改正について

原案どおり可決承認されました。

報告事項

- ・新入会員について
新入会員23名の報告がされました。
- ・事業実施状況について
令和4年4月～6月の事業実績と事業進捗状況が報告されました。
- ・定款22条に基づく、理事長・副理事長の職務執行状況について
- ・令和4年7月からの事務局体制について
- ・事故報告について
- ・各委員会の報告について
- ・その他

令和4年度 第4回理事会 (令和4年9月30日開催)

協議事項

第13号議案 委員会委員等の費用弁償に関する規程の一部改正について
原案どおり可決承認されました。

第14号議案 配分金規程に基づく配分金の一部改正について
原案どおり可決承認されました。

報告事項

- ・新入会員について
新入会員20名の報告がされました。
- ・事業実施状況について
令和4年4月～8月の事業実績と事業進捗状況が報告されました。
- ・事故報告について
- ・各委員会の報告について
- ・未収金回収について
- ・その他

(別表1) 理事の各委員会における所属について
(令和4年6月～令和6年6月)

委員会	人数	所属理事
総務委員会	2	軽部副理事長、進藤理事(高橋)
事業運営委員会	2	池田理事、佐藤則子理事(栗田、佐藤)
会報委員会	1	渡邊理事(本間)
安全就業委員会	2	成田理事、富樫理事(五十嵐、佐藤)
就業適正化委員会	1	軽部副理事長(高橋)
女性委員会	1	渡邊理事、村上理事、佐藤公子理事(鈴木)
衛生委員会	1	阿部理事(高橋、栗田、石井)

()は担当職員

開館四十周年を迎える土門拳記念館

酒田市長誉市民第一号の土門拳の作品群を展示する日本で最初の写真美術館「土門拳記念館」が、来年開館から四十周年を迎えます。

今号では、土門拳の人物像、記念館の建築の特徴、土門拳と交流の深い友人たち、そして、土門拳の名作の数々を紹介し、会員皆様をはじめ多くの市民皆様が、郷土の誇りとする記念館をあらためて訪問する契機となることを願うものです。

土門拳の人物像

一九〇九年（明治四十二年）山形県鮑海郡酒田町（現・酒田市長生町）の母親の実家で生まれる。父熊造、母とみ。文学好きの父が、小杉天外の小説「コブシ」から「拳」と命名。土門家が代々染物業を営んでいた場所には標柱が立っている。父は北海道へ出稼ぎ、母は看護師として働いていた為、祖父母に育てられ孤独な幼年時代だったが、町内一のがき大将でもあった。六歳、先発していた両親の住む東京へ移住。小中を通して成績優秀であった。中学校時代、家庭の事情で退学を迫られた時には、月謝免除の特典を受け学業を続ける。画家を目指していた時期もあった。

弁護士の本生を経験した後、農民運動に加担して度々留置場に。

母の勧めで、二四歳で上野池の端の宮内写真場の門生となる。一度もカメラを持った事もない土門が写真の道を歩み始めた切っ掛けである。然し営業写真に懐疑と不満を募らせ猛勉強を重ね、師匠に内緒で日本工房入社試験を受け合格。念願の報道写真の道に進む。アメリカのカメラマン・シュライナーが来日。滞日中の撮影助手を務めた。

国際文化振興会の囑託カメラマンとなり、ここでタイムピストをしていた中村たみと三〇歳で結婚。三一歳長女誕生。空海の幼名から真魚と命名。次女真葉、三女真耶、長男樹生と誕生。完全なフリーランスとなる。四〇年振りに酒田を訪れ山王祭りを取材。内町の土門家には大きな柿の木があったと言う記憶を辿り生家を探すが確証は得られなかった。

一九七四年（六五歳）酒田市長誉市民第一号となり、顕彰式の席上で全作品を酒田市に寄贈の申し出をする。酒田市での定宿はル・ポットフーがある元東急インだった。平成二年九月一五日、心不全の為死亡。十月酒田市で市葬。八十歳であった。【出典：阿部博行著『土門

拳生涯とその時代】（三丁目）

土門拳記念館建築概要

酒田市長誉市民第一号となった土門拳は、自分の全作品を郷里酒田市に贈りたいと語った。酒田市はそれに応え、世界でも珍しい、日本で最初の写真専門の美術館として、一九八三年（昭和五八年一〇月）土門拳記念館を、約一年半の工期を掛けて完成させた。

敷地は、市街地から南西四kmに位置する、最上川の左岸、飯森山公園の中を選び、美しい自然林と丘を背景として、前面に池を配し、秀峰鳥海山を眺望する絶好の場所に建物を据えた。

設計は土門拳と親交のあった、谷口吉郎氏のご子息であり、日本を代表する建築家の一人である、谷口吉生氏。氏は、この美しい自然環境と建物をいかにして強調させるかを最も重視し、その協和する響きの中に、土門拳の芸術空間をより高純度に熟成することを主題とした。

エントランスには、亀倉雄策氏デザイン「土門拳記念館」銘板がある



イサム・ノグチ氏デザインの中庭

り、中庭には世界的彫刻家、イサム・ノグチ氏デザインの、石で作った「土門さん」があります。「流れ」と題した庭は、当時の華道草月流家元の手にする庭です。

池に面した土門拳記念館からは、秀峰鳥海山を望むことができます。また、この池には毎年時期になると、白鳥が飛来して、まさに白鳥池です。池の前には、草野心平氏の石で作った「拳湖」が置いてあります。

是非、内館・外館問わずに、ご覧下さい。（小山）

土門拳の友人たち

土門拳記念館の建築設計に携わった谷口吉生氏は建築だけでなく土門拳と親しい方々の親交が形として記念館の中に記憶されることを設計の一部として意図した。

それは一流の芸術家たちが残した友情の証でもある。

●建物全体

谷口吉生（一九三七～）東京都生まれ。世界で最も美しい美術館を作る建築家といわれている。ニューヨーク近代美術館設計。

●中庭の彫刻【土門さん】

イサム・ノグチ（一九〇四～一九八八）ロサンゼルス生まれ。彫刻家。庭

園や橋、また抽象的な石の彫刻を世界中に数多く残した。

●庭園【流れ】

勅使河原宏（一九二七～二〇〇二）

東京都生まれ。華道草月流初代家元・勅使河原蒼風の長男。映画「砂の女」「利休」などの映画監督としても知られている。蒼風と土門とは、亀倉雄策と共に三兄弟といわれるほど仲が良かったことから土門拳記念館で初めて作庭を手掛けた。

●銘板【土門拳記念館】

亀倉雄策（一九一五～一九九七）

新潟県生まれ。東京オリニピックポスター、大阪万博ポスターなど日本のグラフィックデザイナーの第一人者として長年活躍。

●銘石【拳湖】

草野心平（一九〇三～一九八八）

福島県生まれ。日本の詩人。「蛙の詩人」と言われるほど、生涯にわたって蛙をテーマとした詩を書き続けた。土門拳とは、弟で詩人の草野天平氏を通じて知り合った。（渡邊）

日本の写真史に残る名作の数々

●筑豊の子どもたち（昭和三五年）

九州の筑豊地方で炭鉱が閉山し多くの失業者が出ました。土門はそこで暮らす子どもたちの生活を撮影し

ました。一〇〇円の写真集はベストセラーとなりました。

●ヒロシマ（昭和三年）

昭和二〇年、戦争で原爆が落とされたヒロシマに土門は一二年後の昭和三年に初めて行きました。そこで原爆のきずあとに苦しむ人々を撮り、そのひどさに世界中が衝撃をうけました。

●風 貌

作家や画家や俳優、政治家などあらゆるところで活躍している人物を撮りました。【川端康成・志賀直哉・山田耕作等】

●古寺巡礼

土門拳の一番の代表作です。生涯四〇年以上かけ一〇〇カ所以上の寺を撮影しました。迫力のある日本文化の姿は多くの人々の感動を呼びました。

●子どもたち

子どもが大好きだった土門。いきいき遊ぶ昭和の子どもたちをたくさん撮りました。

その他、風景、伝統のかたち、古窯遍歴、音楽等があります。土門拳は写真を撮る現場やその物に対する説明文、エッセイ、文章による表現力が優れていました。【拳眼】【拳心】【拳魂】と随筆本を出版しています。（小林）

山形県・酒田市が誇る土門拳の世界へ

現在、土門拳記念館では、2023.1.15 (Sun) まで、以下の展示を行っております。

なかなか「旅」という行動をおこしづらい現代。すばらしい芸術写真を通してその気持ちを味わうのも一考だと思いますが、いかがですか。

【企画展示室Ⅰ】第41回土門拳賞受賞作品展 北島敬三 UNTITLED RECORDS [カラー35点]

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年に毎日新聞社が設立した土門拳賞受賞作品展。受賞者の北島敬三氏が1999年から現在に至るまで、北海道から沖縄まで足を運んで収めた320点の中から選定した35点を展示しています。

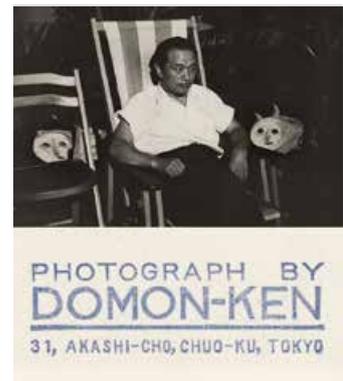
【主要展示室/エントランス】古寺巡礼 Autumn Collection

秋、古寺の雰囲気ゆったり浸るのに最適の季節。容姿端麗な寺院から、もの想いにふけていそうな表情の仏像まで、さまざまな古寺の姿をお楽しみください。

【企画展示室Ⅱ】Japanese Faces

－ 希少プリントでたどる、日本の貌 －

人物から仏像、そして縄文土器まで、土門のレンズが捉えた様々な被写体を“日本の貌”という視点で企画した展覧会。初公開の「希少プリント」も含まれています。土門拳が昭和の著名人たちのポートレートを収めた代表作の「風貌」とはまた違った趣があります。ぜひ味わってください。



◀岡本太郎>/希少プリントの裏面に押された土門拳のスタンプ

日常茶番事

日頃、胸中に秘めていたバカ話、無駄話をするコーナー。第4回目は「誰にも言えない私の秘密!」と題して、皆さんから「玉簾の滝から飛び込むくらいの勇気を持って」打ち明けていただきました。大いに笑い、感動してください。

なお、第5回目は「私の初恋!」と題して募集いたします。今も青春真っ只中の皆さん、遠い昔の甘酸っぱい思い出、この際ですからお話しませんか。特に締め切りを設けませんので、封筒の表に「会報原稿」と記入して、事務所または旧支所ポストに投入して下さい。もちろん、匿名で結構です。

『女房の隠し事』

昨今幼い子供の行方不明事件続発。それで思い出したが、長女が2歳半頃だったか、次女の世話に追われていた女房が気付いたら、団地の遊園地から一瞬の内に長女が消えていたらしい。

幸い長女は何故か近くのスーパーの前で泣いているところを、青くなって捜していた女房が見つけたようだ。

それを話すと俺に叱られると思った女房は未だに内緒にしている。

しかし当時から近所の情報で俺が知ってしまった事を俺も女房に言えてない。

それに時効も時効、40年前の話。

－女房思いの俺－

『それは秘密です』

私の秘密はと大上段に構えてはみたが、それは何だろう。妻からはいつも断捨離と言われる。

そこで、たまに積み上がった雑物を片付けようと手を付けるが、それぞれに思い出があり、眺めているだけで時間が経過して、前に進まない有様である。せめて忘れていたへそくりでも出ればしめたものだが。

ささやかな秘密も出て来ないのだから、秘密と言ってもたかが知れているというものである。

考えてみれば、花も嵐も踏み越えて70有余年も生きて来たことが、我が人生最大の秘密なのかもしれない。

－平凡太郎－

中学生の甘い話

中学2年生の時、光丘文庫へ勉強の為に行っていました。春のある日、長い階段の途中で可愛い女の子より、ピンクの封筒に入った手紙を渡されました。時々勉強室で見かけた子でした。家に帰って、封筒の中から手紙を出して読みました。最初何のことか解りませんでした。手紙には「一緒に勉強しませんか」ときれいな字で書かれていました。臆病だった私はそれから一か月ぐらい行けなかった。この話は、60年前の私の大事な秘密です。

－臆病な私－

私の秘密

私は双子です。一卵性双生児で男です。私は十二歳上の姉と、六歳上の姉がいます。私の父は、2代続いた製造業を営んでいて、何としても跡継ぎがほしかったのでしょうか。

ところが、次に生まれたのが、男の双子でした。私が長男で、弟が次男です。同じ日同時に生まれても、戸籍上は私が長男です。双子なので、小さい時から顔が似ていて、しょっちゅう弟と間違われました。中学校までは同じ学校に通いましたが、長男は商売に適した学校、弟は進学校へと別れました。

しかし、私が高校に入った頃から、時代の流れで、父のやっている商売は時代に合わない事だと思い、卒業後はサラリーマンになりました。その後父も商売はまもなく止めました。当時、双子の有名人、ザ・ピーナッツやこまどり姉妹が夢でした。

－コーセンさん－

令和4年度 事故報告 令和4年9月30日現在

労災事故

発生日時	発生状況	原因と対策
8月31日 60歳女性	介護施設利用者の送迎時、職員が上体を起こし、会員が両足を持ち後進した際、利用者が暴れ、部屋の境の段差でバランスを崩し尻もちをついた。	原因) 利用者宅の通路の状況を十分に把握できておらず、急な状況変化に対応できなかった。 対策) 利用者宅の状況を把握し、安全を確保した上で介助し、両脇からの介助を検討する。

損害事故

発生日時	発生状況	原因と対策
9月14日 81歳男性	光ヶ丘公園内の草刈り作業中、飛石によりプールの窓ガラスを破損した。	原因) 進行方向を逆から刈ったため建物側に石を飛ばしてしまった。 対策) 刈り進める方向に注意し、飛散防止養生ネット等の使用を徹底する。

随感

遠い記憶

上安町

岸谷 英雄



四十年の役所勤めを卒業し、気がつけば六十歳代も半ば。最近健康維持を兼ね時間を

見つけてウォーキングをしています。時には偶然入り込んだ路地裏で、ふと忘れていた記憶が呼び覚まされることもあります。

先日も、酒田駅から旭新町方面に

社会参加でいきいきと

亀ヶ崎

土門 幸子



昨年長年勤めた職場を退職。在職時から年を重ねる毎にその後の社会との関わり方を思索していました。

スポーツ、手習い、ボランティア活動参加と楽しいけれど何か物足りなさを感じていたところ、友人宅に行った時、短時間の仕事を希望していた私にシルバー人材センター情報と

「早目に登録しておいた方がいいよ」

向かう狭い路地裏を歩いていました。

と、その時、そこが六十年近く前の十二月、父母と僕が道に迷って入り込んでしまったところだ!!と突如思い出しました。その時、私たち家族は八年住んでいた札幌から引越してきたばかり。僕はまだ五歳、父と母は三十代半ば、今の僕よりもずっと若い。小さかった僕を連れ寒空の中、若かった父と母はどんな気持ちだったのか。

見慣れた街並みにも、自分や家族、そして街の来し方行く末に思いをいたす、「年を重ねる」とそんな事もあるのだなあ、と思うこの頃です。

と言われ申込へ。間もなく孫誕生で一週間位手伝いを予定していたのでその後と想っていたが、後日学童保育補助を来月から頼みたいと連絡があった。迷惑をかけたくないのでその旨を伝えると「その時は対応するので大丈夫ですよ」と有難い言葉で決心。子供は好きだが最初は戸惑いもあった。今では「あそぼお」と誘ってきたりします。子供達が笑顔で帰れるようにと思いつつ遊んだり時には注意もします。

そして私は元氣をもらって笑顔。

安全就業だより



安全就業委員長

富樫 勝二

この度、安全就業委員に選任されました。入会時に頂いた『会員必携』の冊子を読み返してみました。この中に、安全就業基準の項目があり、第一条目的には会員の就業に伴う事故を未然に防止し、安全に就業できる事項を定めることとあり

りました。続いて会員の遵守義務や安全心得、更に作業別安全就業基準と細かく記載されておりました。そして、この基準を遵守し作業をしていけば、重篤な事故は未然に防げるのではないかと、改めて考えさせられました。会員皆様に於かれましては、個人事業主であることを念頭に、自分自身のための安全就業基準であることを認識し、無理のない余裕を持った働き方をしましょう。

令和4年度 安全就業に関する標語入選作品

最優秀

見逃すな 毎日変わる 危険個所

公益社団法人 東根市シルバー人材センター 笹川 充義

優秀

急ぐほど 気づかず増える 危険の芽

公益社団法人 山形市シルバー人材センター 吉永 二郎

安全は 人に頼らず 任せずに

公益社団法人 米沢市シルバー人材センター 玉虫千代子

訃報

謹んでご冥福を

お祈り申し上げます

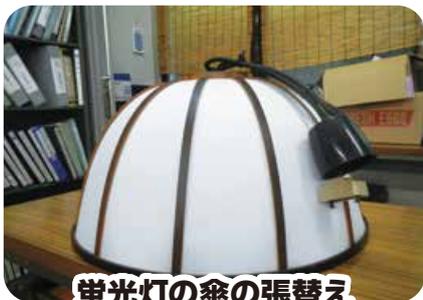
奥山 正雄さん(八十歳) 四年八月
佐藤 明さん(七十五歳) 四年九月

“公園のおしごととは
雨でグチャグチャになったり、
太陽に照らされて、滝のような
汗をかく大変な仕事だけど、
公園に来る人たちは
ちゃあちゃんたちのおかげで
気持ちよく使えてると思うよ!!”

ちゃあちゃんの孫より(^^)/



障子張替え



蛍光灯の傘の張替え



賀詞額入れ

写真で見る 2022 この半年



神社棟札筆耕



土門拳記念館取材

みんな がんばった!!



飯森山公園ショウブ園の除草



千歳の松ぼっくり採り

移住してきた亀です。

僕たちは、今から約三十年前、太平洋側の仙台市から引越して来ました。今流行りの移住の先駆けです。来た当時は、ほんの卵大でしたが、大家さんがおいしいスイカやメロン、野菜などをいっぱい食べさせてくれるので、今ではこんなに大きくなりました。



小玉スイカに
かぶりつく僕たち

日本海側の酒田は、風の強い日が多いですが、大きな災害も少なくとても過ごしやすい所ですよ。

鳥海山、庄内平野、最上川、そして日本海に、飛鳥。ひとつの自治体で豊かな自然資源がそろっているのは全国でも酒田くらいじゃないですか。食べ物がおいしいわけです。移住して来て良かった。

「あど、入れ、入れ」大家さんの声が聞こえます。夕方になりました。「のしーのしー」家に入ります。ではまた明日。

（まちなかのほっこりする
話題をお寄せください。）

編集後記

大雪の大変な雪掻きから解放され、冬タイヤを、夏タイヤに交換した日のワクワク感は、つい先日のようにです。この号がお手元に届く頃は、既に冬タイヤになっているのでしょうか。

歳を重ねる毎に、月日がそして一年が過ぎる速さに、複雑な思いをしているのは私だけでしょうか。

来年は、シルバ－人材センター発足四十周年と聞きました。記念誌も発刊される予定とか。

ところで皆様は、四十年前何を覚えていましたか。男性は髪もフサフサ、仕事も軌道に乗り、我こそは会社・社会に無くてはならない存在だと自負していたのでは。女性はまだ子育てに追われる中、子供達の明るい将来は自分の手の中にと、親子共々叱咤激励する日々。「シルバ－」と言う言葉さえ頭の中に存在しなかったのではないのでしょうか。

発足当時の会員の皆様は一体どんな仕事をしていたのか興味津々の私です。記念誌の発刊が待たれます。

（三丁目蕙子）